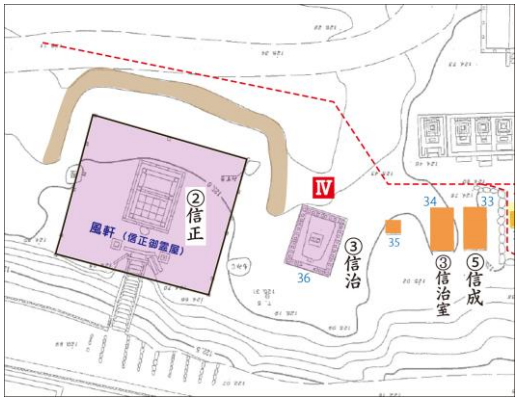
飯能市立博物館
Hanno Municipal Museum

中山鈴子の智観寺墓参

尾崎 泰弘

能仁寺を菩提寺としていた、旗本中山(照守)家の一族、中山直道の妻鈴子は、舅の直張と義理の弟延貞の墓参のため、飯能へやってきます。時は、5 代将軍徳川綱吉の治世であった元禄 7(1694)年頃と考えられています。直道は、徳川綱吉に取り立てられ大名に出世した(黒田)直邦の実兄で、鈴子は直道と結婚したばかりでした。



智観寺中山信治墓とその周辺位置図

鈴子は、来飯の道中を旅日記(「藤井氏女記」)に綴っています。それによると 3 月 26 日に姑の慈広院とともに江戸を出発し、延貞の墓がある白子村の長念寺に向かい、その後能仁寺を訪れます。能仁寺では月命日の晦日に舅直張の墓参をし、その後愛宕山(現在の天覧山)に登っています。

それから智観寺を訪れたのですが、智観寺の住職はあいにく京に登っていて留守でした。智観寺は、徳川御三家の 1 つ水戸藩の付家老であった中山信吉(照守の弟)を祖とする家の菩提寺であり、鈴子の目的はその三代目、信治の墓参にあったのです。

鈴子が詣でた中山信治墓(手前)と
その右手にある子、妻の墓

信治は藩祖信吉の四男で、鈴子が飯能を訪れる 5 年前の元禄 2(1689)年 6 月 11 日に 62 歳で亡くなっています。鈴子は、みな一族のよしみがあるので見過ごすわけにはいかない、としながらもとりわけ道軒(信治の法名)は、自分が幼かった頃から慈しみが深く、また何かと細やかに気遣ってくれ、その言動、容姿などは上品でみやびであったと追憶しています。そしてその墓前にひざまづき涙をおさえつつその死を悼む和歌を詠んでいます。鈴子は水戸徳川家の家臣藤井紋太夫の娘なので、同じく水戸徳川家の家老であった信治とは幼い頃からつきあいがあったのでしょう。また、信治の娘は、鈴子の嫁いだ中山(照守)家当主の直房(直道の従兄弟にあたる)の妻となっていました。

信治の墓の近くには、その六男信秀(図の№35)、三男で 5 代藩主となった信成(同 33)。そして信治の妻で信成の母である円明院(同 34)が葬られています。当時はまだ墓石が少なく今と違って墓地の様子はかなり異なっていたはずです。鈴子は、信治の兄で親子ほども年の違う 2 代目当主信正の御霊屋(墓は水戸)への参道である階段を上り、そこから右隣にあった信治の墓へ詣でたのでしょうか。鈴子の書いた日記は、その当時の智観寺へと私たちを誘ってくれています。

【参考文献】

京都桂の会「藤井氏女記」(翻刻) 桂文庫『江戸期おんな考』12 号 平成 13(2001)年
倉本 京子「「藤井氏女記」と「鈴子日記」について」 同上
尾崎 泰弘「智観寺中山家墓地の形成過程」 飯能市立博物館『飯能市立博物館研究紀要』第 1 号 令和元(2019)年